

国語科 学 習 指 導 略 案

3年2組 32名 指導者 星原貴光

本授業では、以下のような検証を行うものである。

登場人物の行動や会話などの叙述から、性格や人柄、気持ちの変化などを想像して読むことで、自分と登場人物とを比べて読んだり、読んだ感想をまとめたりすることができたか。

1 単 元 読 ん で、考 え た こ と を 発 表 し よ う 「海をかつとばせ」

2 指 導 計 画 (総時数8時間)

過程	主 な 学 習 活 動 【 評 価 規 準 】	時間
課題をつかむ	1 教材文「海をかつとばせ」を読んで、主人公「ワタル」と自分の似ているところや違うところを中心に初発の感想を発表し合う。	1
	2 学習課題を設定し、学習計画を協議する。 人物と自分を比べながら読み、感想をもとう。 【関：登場人物と自分を比べながら意欲的に読もうとしている。】	
	3 「本は友だち」を参考に、読書記録の付け方を確認したり、読みたい本を探したりして読書計画を立て、並行読書を進める。	1
情報をもとに考える	4 場面毎に「ワタル」の行動や会話などの叙述をもとに、自分と比べながら、性格や気持ちの変化を想像して読む。 【読：登場人物の行動や会話などの叙述をもとに、性格や気持ちの変化などを想像して読んでいる。】	2
	5 読んだことをもとに自分の考え（共感・反発、疑問など）を感想にまとめる。 【読：自分の考えや考えの根拠となる叙述を明確にしなが、読んだ感想を短い文章にまとめている。】	1 (本時)
	6 様子を表す語句を取り出して、文中における修飾・被修飾の関係を捉えたり、他の言葉に置き換えて語感の違いを考えたりする。 【言：語句には性質や役割の上で、類別があることを理解している。】	1
表現する	7 これまでに並行読書してきた本の中から、気に入った物語を選び、自分の感想（共感・反発・疑問など）をまとめ、発表し合う。 【読：文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。】	2

3 本 時 (5/8)

(1) 目 標

登場人物の行動や会話などの叙述をもとに、性格や人柄、気持ちの変化などを想像して読み、短い文章で感想をまとめることができるようにする。

(2) 評価規準

- 登場人物と自分を比べながら意欲的に読もうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- 自分の考えや考えの根拠となる叙述を明確にし、読んだ感想をまとめている。【読む能力】
- 文中から様子を表す言葉を探して書き出している。【言語についての知識・理解・技能】

(3) 指導に当たって

子どもたちは、これまで多くの物語を読んできている。しかし、自分と登場人物とを比べながら読んだり、感想をまとめたりした経験はあまりない。そこで、本単元では、「人物と自分を比べて読む」読み方や「読んだことをもとに自分の感想をもつ」という考え方を、授業の中で具体的に身に付けさせていきたい。

そのために、導入の段階では、モデルとする感想文の文章構成を分析させながら、どの叙述に着目して読めばよいか、また、叙述をもとにどのように考えればよいかを確認させていく。

展開の段階では、「ワタル」の行動や会話を取り出し、関連する叙述をつなぐことで、人物の性格や人柄、気持ちの変化などを想像して読ませていくようにする。

終末の段階では、モデル文を参考にさせながら、本時で読み取った「ワタル」の性格や人柄、気持ちの変化などを自分と比べて考えさせながら、短い感想にまとめさせていく。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
7	つかむ	1 前時までの学習を想起し、音読を通して学習範囲を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 「ワタル」や「波の子ども」らしさが伝わるように、元気な声で読むぞ。
	見通す	2 学習のめあてと進め方を確かめる。 <p>感想をまとめるには、どんなことに気を付けて読めばいいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想をまとめるには、どんな読み方や考え方をすればいいのかな。 今日の学習では、これまでに学習してきた「えんぴつ読み」が生かせそうぞ。
28	調べる	3 モデル文の文章構成を分析的に読み、感想のまとめ方を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> このモデル文は、4つの文で構成されているね。 「ワタル」の気持ちや人柄がよく表れている1文から、書き始めるといいね。 「ワタル」の行動や会話を自分と比べて、感じたこと（共感・反発、疑問など）を書くと、考えが深まるぞ。
		4 学習範囲の中から、心に残った会話や叙述をつないで、「ワタル」の性格や気持ちを想像して読む。 <ul style="list-style-type: none"> 性格や気持ちを想像して読むためには人物が「したこと」や「言ったこと」から、つながりのある文や言葉を見付け、想像しながら読むといいね。
10	まとめる	5 読んだことをもとに自分の考え（共感・反発、疑問など）を感想にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> モデル文の構成に沿って書くことで、自分の考えをまとめることができた。 構成の順序を変えてもよさそうぞ。
	振り返る	6 友達と感想を交流し合い、一人一人の感じ方の違いやよさを見付ける。 <ul style="list-style-type: none"> 自分も〇〇さんのように感想をまとめられるようになりたいな。
		7 学習の成果を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 人物の行動や会話、気持ちなどの叙述を自分と比べながら読むと、その人物らしさが読み取れる。 心に残った叙述をもとに、感じたこと（共感・反発、疑問など）を順序よく書くと、感想をまとめることができる。
		8 次時の学習への期待感をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> 次の学習では、様子を表す言葉を集めて文を作ったり、並行読書を進めたりして、読み取りを深めていくぞ。

登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを、作品全体から関連付けて読めるようにするため、教材文を1枚にまとめた全文シートを用意しておく。



本時では、会話や行動など、関連する叙述をつなぎながら読む「えんぴつ読み」が生かせることに気付かせ、学習への見通しをもたせる。

人物の行動や会話などの叙述から、関連する言葉を線でつなげ、「なぜ（どうして）～したのか（言ったのか）」などを中心に考えさせるようにする。



※ 登場人物の行動や会話などの叙述から、人物の性格や気持ちを関連的にとらえ、想像力を働かせながら読んでいる。（ワークシートへの書き込み）

- 叙述をもとに想像して読んでいる子どもには、構成の順序を工夫して書くようにさせる。
- 叙述をもとに想像して読めていない子どもには、「もし、自分だったら～」と考えさせ、「ワタル」と自分の共通点や相違点を考えさせるなどの個別指導を行う。

本時では「ワタル」と自分を比べて読むだけではなく、友達との感想交流を通して、一人一人の考え方、感じ方について違いのあることに気付かせ、互いのよさを認め合える学級づくりにも生かせるようにする。



次時は、これまで学んできた読み方や感想のまとめ方を生かして、感想を交流し合うことを知らせて、学習意欲を高めるようにする